

縁角円

「ふちすみまる」

古くから伝わる丸窓の意匠を、眺めて外の景色を楽しむものから眺める内側(室内)を特別にするものへと解釈を広げる間仕切り。

その由来を仏教にもつ丸窓は、それを通した向こう側の景色を見ることが自分自身を見つめ直すものとされている。

これを参考に、室内空間へ丸窓を応用したのが縁角円である。

空間の内と外を穴を通して見ることに加え、通常は平面である丸窓を壁面の角に置くことで、立体的な要素を持たせ、特別感を演出することを目指した。

